

総務、産業、建設常任委員会記録

招 集 年 月 日	平成29年2月9日(木)
招 集 の 場 所	議員控室
開 会	午前10時21分
出 席 者	委員長 我妻 薫 副委員長 山岸 三男 委員 千葉 一男 委員 藤田 洋一 委員 櫻井 功紀 委員 鈴木 宏通 委員 前原 吉宏 議長 吉田 眞悦
欠 席 者	
職務のため出席 した者の職氏名	議会事務局次長 佐藤俊幸
協 議 事 項	・農商工連携による活性化について
そ の 他	
閉 会	午後0時29分

2号様式 協議の経過

我妻委員長	本会議の後の常任委員会、お疲れのところ大変御苦労さまでございます。 確認どおり会議終了後ということで、ただいまから総務産業建設常任委員会を開催したいと思います。よろしくお願いいたします。 委員7名全員出席しておりますので常任委員会は成立しております。 では早速、農商工連携に係る活性化についての議論を継続して行ってまいりたいと思います。 27日、みどりの農業協同組合の組合長をはじめ幹部の皆さんとの意見交換が行われました。その辺の内容等も含めて、意見交換とか議論を深めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。 J Aのほうから説明をいただいて、質疑を行うという形で進めてまいりましたけれども、そのことも含めて。 今日でまとめということにならないと思いますので、率直な感想等から出し合っていただければと思います。 鈴木委員。
鈴木委員	先日のJ Aみどりのでの会議におきましては、みどりのの生産物について、主に生産という部分で説明をしていただいた点が主だったかなという感想でございます。 それと穀類、野菜類、それぞれいろいろな部分で生産し販売している品目について説明をいただきましたけれども、その生産が主な今回、話だったかなというのがありまして。 主に加工につきまして例えばいろんな業種に頼んでいるような鹿島台のデリシャストマト、みどりの全体で行っているのはコメの焼酎を熊本のほうで造っているというお話がありましたけれども、全体的にはやはり、私たちのテーマであります農商工連携に関しては、どうしてもこれからなのかなと、主にそういうふうに感じました。 そしてなおさら、私たち美里町の中におきましては、一応バラのほうの話も出ましたが、バラの加工というのではなくて主に花の販売ということでの説明でしたし、やはり農協本体といたら変ですけども、こちらのほうの営農部の方々の御説明でしたので、生産品目に関する説明が主だったかなという感じを拭い切れないでこの間、協議を終えてきたかなという感想でございます。 以上です。
我妻委員長	皆さん感じたこと、まず出していただいて。 それを受けて今後、常任委員会でどうするか、議論を進めていきたいということでもよろしいですかね。

	今、鈴木さんから生産中心の説明だったんだと。なかなか農商工連携のほうまで、これからかなということも言われました。 ほかの委員の皆さん、どうですか。 藤田委員。
藤田委員	今の関連、鈴木さん言われたとおりだと私もそういうふう感じたわけでありすけれども。 やはり農協はどこまで農商工連携に対してそういう意識があるのかというと、まだちょっと我々が感じ取るまでは、いっていないなというふうに私は感じたんですね。 ただ、説明の中で、いろいろ意見のやり取りの中では、渡辺種屋のちぢみほうれん草などの種がやっぱり多く売れていると。そのつながり、さらには馬鈴薯については契約栽培とか。大豆のほうだって主に豆腐なんかも使っているけれども、これも地元の豆腐屋さんといいますか、その関連はちょっと薄いなと。さらには、今の花もそのとおりですね。 ですから、全体的にどこまで農協が我々の求めたものに対して、ま、説明は十分していただいたわけですが、ちょっと物足りないというか、これから私たち、どのように考えて農商工連携、商業、工業との課題の中でどういったものにしていったらよいのかなというの、これからの課題だと思いますが。 実績とかそういうの、全部説明したんでありますけど、これが、どれほど地元の商工に反映されているのかなと。農協がどのように考えているんだということ、ちょっと掴めるところがなかったというのが実感ですね。 ただ、強いて言えば渡辺種屋さんだったり、ある一部の鎌田醤油さんだったりとか、そういうのをちょっと感じましたけども。 これからどのように、もっとやっぱり美里のブランドといいますか、求めている農商工連携に対して、どういうところを吸い取って仕上げて進めていくのが課題だと私は感じました。
我妻委員長	前原委員。
前原委員	私は農協のやっていることというのは、そのとおり営農の部分で農家の方のお手伝いしているというのが、そのとおりだったんですが。 感じたのは、どうしても組織が大きい部分もあって、ま、自己完結型というか、組織の中で元気くん市場なり、そういう部分をつくって、消費者に届けるというプログラムが整っているのかなと思いました。 その中で例えば我々が町のほうに提言して農商工連携で組み立てていく場合、果たして、前に言ったカネサオーガニックさんですとか、そういう部分、どういうふうにマッチングさせることができるのかなと考えたとき

	に、なかなか難しい部分が出てくるのかなというのが、私が感じたところです。 以上です。
我妻委員長	千葉委員。
千葉委員	要するに連携という形をつくり上げる、連携の核になるという部分がね、そういうものが、なかなかどこにいても難しいなというのが感じました。 ただ、成功例として、北海道に行ったときもやっぱりお金というものを中心として連携を強化させて、企業として結びつけていくという実績を一応見させてもらっている。 結論としては商売なので、行政がみんなで調整して多数決で決めるような企業体ではなかなか難しいなというのが実感でした。 一番は連携するそのエネルギー、力を、どこかで核になるものがないとなかなか難しい。その点をどうつくり上げるのが、テーマと言ったらいいか、何て言ったらいいんでしょうね。難しいなと感じました。 以上です。
我妻委員長	ほかにございますか。 櫻井委員。
櫻井委員	ただいま各委員がおっしゃったことは、まさにそのとおりだと思います。 ですから、テーマを農商工連携、前はみどりの農協と意見交換会したんですよね。なかなか組織体が大きくて、生産と販売先とそれだけに回ってね。 連携を主導するのが行政なのか、それともそういう大きな組織の企業体がやっぱり寄り添ってやっていくのが本当はいいのだけでも、そこまでできないんでないかなと思うんだな。 だから掛け声ばかり掛けていて、いざやろうとなったときにそれぞれの利害関係も出てくると思いますよ。 だから鈴木委員がさっき話したとおり、バラは、ただそのまま生バラを売っているだけであって、そこでまたバラの加工品、商品とか、それをどこが主導していくのかだと思いますよ。 最初に農商工連携による活性化と言ったけど、なんか最近うんと難しくなっているようだね、テーマが。 そういう感じです。
我妻委員長	じゃ、副委員長。
山岸委員	私も確かに皆さんおっしゃるとおり、農商工連携というタイトルになっちゃうと難しいという印象を持っています。 ただ、この間、農協さんとの話し合いの中でいろいろ資料もいっぱいも

	らった、それで感じていることは、それぞれの個別の農家さん、生産者、販売業者さん、それぞれみんな独自で頑張っています。私たち、梨部会にも行って梨部会の人たちもそれぞれ独自で頑張って努力している。あとハニーローズさんも目いっぱい頑張っている。 それぞれみんな生産者であり企業であり業者さんというのは、自分の施設の中なり自分の売り上げの中で一生懸命頑張っているんですよ。 その中で私たちがたまたま農商工連携と掲げたもんですから、それをどのようにくっつけるかとか、どのように連携したらいいかとそれに特化してしまうけれども、私はもう既に、現在一つの例を言えば花野果市場に対して、うちの近くの呉服屋さんがむしろ花野果さんから来てくれと要請されて週に何回も行っているんですね。要するに野菜とかじゃなくて衣料品なんですよ、その方は。それでやっぱり野菜関係しかないから衣類も置いていると、ぼつりぼつり安いもんだから売れるんだと。 そうすると要するに店の商品のアイテムをふやすためにも異業種の方もその施設に入ってもらって消費者は逆にありがたい。 そういうこと総合的に判断すると、我々のここの議会とか常任委員会で農商工連携をどういうふうに進めるかという考え方よりも、既存の商店あるいは農家さん、生産者、そういう方が一緒に頑張っていることに対して売上げを伸ばす方法。商工会も青色申告とかそういう決算のほうでやっています。農協さんもやっているんだろうけれども、本当に農協さん、個別の農家さんに決算まで協力しているのかどうかというのは、ちょっと私見えないんだけど。 現在の状況でもある程度、連携になっているんだろうと今、判断している。だからそれをもう少し、じゃ、目に見える形で連携をするにはどうしたらいいかと考えたときに商工会、農協、経済団体になっていますから、特に農協さんは完全なデパートと同じですよ。生産はやる、商品開発もやる。食の安全という関係がある。皆やっていますから。それらの活動が既にもう連携につながっているんだろうと私は思っていますので。 常任委員会でどういうふうにするかと。皆さんで一生懸命議論して、もう少し目に見えるような連携、つながるようなあるいはバックアップできるような施策で考えていくしかないのかなと思っています。 以上です。
我妻委員長	一通り皆さんから感想的なものですが出していただきました。 私もちょっと感想を言えば、さっき鈴木さんからも生産中心だったということ。販売のほうは元気くん市場が主なものとして報告されたということ。あとはコメについては直接じゃないけれど、だいぶコンビニとか宮城

米が消費されているという話もあったけど、それが直接、美里あるいはみどりの米作とどう関わっているのかちょっと、そこはまだ不明確なところ。そういった現状は私も掴むことができたのかなと思います。

ただ、意見交換して私なりにざっとした感想ですが、今、皆さんが言われた農商工連携。我々がなんで常任委員会でこれ設定したのかというのは、美里としてのブランドというか名前を付けて美里の特産品というか、美里としてどういうまちづくり活性化につなげる、そういうものにしていくのかというのが狙いとしてあったと思うんだよね。その狙いについては、最後のほうで意見交換にちょっとなって、一番感じたのは、それについて関係している町も含めてそんなにまだ議論されていないなど。そんなの最後のほうで率直に感じました。

産業振興課も来ていましたけど、今の取り組みとしては勉強会みたいな講演会みたいな何回か集めて公募して、あれぐらいだよね、今やっているのね。

あと感じたのは、同じように梨部会の人たちとも交流して、若い人なんか意見も聞いてみて、ピューレとかそういうことのやつで、農協の梨部会を通して直接売ってないものを一応どんなものに活用できるかという発想から商品化を狙ってやっているけれども、あの人たちと直接の意見交換、生産者との、それもほとんどやっていないなど。最初の梨部会の若い人たちの話で感じたということ。

だからその辺、町としてやっぱりコーディネーター的なものを果たしてどこまでやられているのかなというのが率直な感じだったし、本当に担当課とそれぞれ農商工という、ま、独り歩きするんじゃなくて、商工会の具体的な担当の人とか、あるいは農協で言えば現場により近い営農指導している人たちと一堂に会して議論しているというのが、ちょっとないんじゃないのかなというのが率直に言って感じたのがある。

さっき、櫻井委員から組織が大きいからと。副委員長からも言われたけれど、みんなそれぞれ頑張っているんだよね。みんな、もちろん自分の利益を増やすためにということで頑張っているけれども、町全体の産物をどういうふうに、町の特色とどう足していくのとか、そういうところに絞ったような話し合いというのが、まだされていないのかな。

それで片方で活性化というのがボーンと打ち上がっているような感じがしてね、ちょっとものすごい乖離があるなど、現状と。

私の感想も含めて、一通り出してもらいましたけど。

元気くんにはかなり力入れていますよね。

一応、元気くんが500戸だっけ、500人だっけ。

	(「500 軒」の声あり) 500 軒、名前はね。 (「すべて全部だけでも、産物全部 6 億 5 千万」の声あり) それも富谷とか、みどりの農協でやっているのね。
藤田委員	独自の生産、販売やっているわけですから。 商工業連携というか、ですから開発とかそういう人が関わっているけども入ってないという感じ。そういうの、やっぱり商工業だとか農家がね、やっぱり。 さっき山岸副委員長さんが言われた花野果で衣類関係というの、それはやっぱりあそこお祭り騒ぎでね、そのようなもの出させて、農商工とはまた違うんだと思うんだよね。 やっぱり人寄せだから、そんなのを売ったらいい、どうぞ来てくださいという感じでやっている。確かにやっているんですよ。 (「そうだね」の声あり) あと女川とか石巻から。(「わかめ売り」の声あり) それとちょっと違うんだね。やっぱり地元の人たち、地元の産物をどのように開発して商品化してやっていくのかというのが農商工。 その辺もやっぱり、そこから考えていかないと農商工関係の人たちも、農協、確かに規模が大きい、組織が大きい、どんどん作って販売しているんだけどね、それをやっぱり連携の中に持ってきて開発までいっているのかというと全然、そういう話もね。産振も通じて何もなっていないというのが俺は感じるね、はっきり言って。
我妻委員長	途中で申し訳ない。 我々がこうやって農協と話し合い持ちましようとか、梨部会、議会として動いていることがやっと見えてきたのかなと。 どうなんですかね。私自身の感想でさっき、じゃ、町としてどのような関わり方してきたのかなという、首をかしげるところあるんだよね。
山岸委員	俺の記憶が正しいかちょっと、今から言えば皆さん、あ、そういうの、あったと思ひ出すかもしれないけど。 いろんな議論の中で、町の業者さん、あるいは町が作っている生産物、例えばイノアックの商品だったり、クミアイ化学の農薬だったり、美里の中で作っている、工場で作っている商品を要するにブランド、何とか認定制度みたいな話、一時期あったのを皆さん記憶あると思うんです。そういう話、一回出たことがあった。認定制度という話があったんです。 要するに美里町内で何十年も、クミアイ化学も 30 年以上になるわけだから、あそこでつくっている商品、いろいろ農薬作って売っているんです。イノアックだってゴム製品とかそういうのいっぱい作っている。

	私、何年も前から、要するにメイド・イン美里とか何かステッカーなり貼ってね、美里町をアピールする、町がそういう少し予算付けてね、そういうバックアップしてあげること、町でできること、産振でそれくらいのことだったらできない話ではないと思っているんです。 ほかの町村に行くと自分の町をアピールするための看板立てたりとか、何とかとやっている。美里町はそれが一切、俺の感覚でいうとないんです。 要するに議論だけ一生懸命やるけれども、それを目に見える形であらわす看板すら何もないの。そういう看板でアピールするだけでもね、意思表示、美里町はこういうことに力を入れているんだなと認知してもらえる、近隣町村から来た人に対してアピールできる。 そういうことも含めて進めていかないと。議論だけで机上だけでは前にあんまり進まない。 できることからやればいいと私は思っているんです。 どうでしょう。
我妻委員長	産振だけが旗を振っても、なかなかそれはできないんで。 すっぽこ汁が出てきた経緯、どういう経過があるんでしたっけ。
山岸委員	新日本の安部さんが商工会長のときに。 （「ディスティネーションキャンペーン」の声あり） あれがスタート。あれもディスティネーションキャンペーンで美里町に何か食うものないかということで。
我妻委員長	中心になったのは商工会。
山岸委員	もちろん商工会。
前原委員	飲食店組合です。
山岸委員	会長が中心になって議論をやったんです、みんなで。 美里町で何を作るかと。つめいりだとか昔からあるものって何だと言ったら、最終的にすっぽこ汁と名前を付けて上野屋のシンちゃんを中心に作り始めて、町内の飲食店にみんな、それぞれ若干味も違ってたっていいから、まず美里町、キャンペーンに行けばすっぽこ汁って食べられるんだと。そしてスタンプラリーなんかもいろいろ企画してやったんです。それがいまだにまだ、すっぽこ汁として残っている。
我妻委員長	いや、ちょっと確認。 言いたかったのは、あの経過の中に農協とか物産観光協会とかそういうところとの協議がどれくらいあって、ああいうふうにしたのかなと。
山岸委員	あれはないよね。農協さんも物産観光協会もあの頃まだなかったからね。商工会中心だった、あれは。
我妻委員長	せっかく、すっぽこ、地元産の野菜なんかをメインにやりましょうとか

	ね、そういうときに生産者との関係をどうするとか、そういうコーディネートができなかったということね。 前原委員。
前原委員	そういう意味では、当時の商工会長がすっぽこ汁だけでなくお弁当を作っています。それが今言った、町内で生産しているコメだったり、シイタケだったり野菜も入れて自分たちで持ち回りで具材を組み立てて弁当を作りましょうとやったのはありました。ＳＬが走ったときに予約販売、中で販売していました、確か。 （「一時に売り切れるんだよね」の声あり） 大変だった記憶はあります。 商業ベースに乗せるというのはなかなか・・・。
山岸委員	でもあれは、美里町のパンフレットにまだ、すっぽこ汁は残っていますからね。
藤田委員	その弁当は売れたんですか。 （「弁当は完売です」の声あり） 昨日、ニュースで見たけれども、気仙沼西高校なんかの学生が弁当を作って知事も食べて、コンビニ販売が認められた。全部地元産なんですよ。気仙沼なんかホタテとかサンマとか。これはいいと、知事も試食をしながらテレビでやっていましたよ。それが１等になってね、今度、各コンビニで販売すると。 そういうふうな、町から出ていくような何かを考えなければならないんだよね。
山岸委員	美里に農林高校が二つ、南郷高校と小牛田農林二つあるんです。 うちのおばあさんはデイサービスで南郷高校にサツマイモ植えに行くて、あと何カ月かしてサツマイモのあれに行くんです、いっぱいもらってくるわけ。 そういう農林で作っている、ブタもウシも飼っていますよね。あと花もつくっていますし。それらもうまくコラボして美里町の何かにつなげることは可能だと思う。
我妻委員長	鈴木委員。
鈴木委員	旧小牛田ですけども、多分、山岸さんなんかご存知、あと櫻井委員さんもそうですけれども、前にリンゴナシというのを。農林高校で苗木を増やしていただいた。バイオのほうは学科でありますので、学校のお手伝いをいただきながら私たちも栽培しているのを見ていましたけれども。 そういうことも、その当時はできましたけれども、現段階でやっぱり今、農業科１クラスですので、なかなか先生方も普通科というか、ま、そちら

の方々の先生のほうが現状で多くなっていますし、もちろんできないということではないでしょうけども。

私たちが花のほうもその当時、南郷ではバラでしたけれども、小牛田ではカーネーションということで、カーネーションの苗木などの無病化、ウィルスフリーというのがあるんですが、そういうバラを使いまして苗木の増産、そして個体の確保をするために、いろいろしていただいた経緯があります。

ただ、今の段階で例えば農林学校ももちろんですけども、先ほど副委員長が申しました、やはり開発や研究に関しては渡辺採種場というのが本当に日本のトップクラスの開発をしている主力会社でありますし、もちろん高校、本当に産官学でいろいろやっていけるといいなとは昔から思っていますけれど、なかなか進まないと。

そしてその当時、小牛田でカホク菜ということでコマツ菜系統の栽培をしまして、当時、チンゲン菜とかそういう葉ものの開発なども種屋さんのほうでしていただいたのを農協、私たち生産者がつくりまして、あとは仙台の中華を作っている方々へ産品として使っていただくような形態も取ったことがあります。ただ、そういう関係、今続いているかということそうではないですけども。

やはりそういう中で美里の町の今、何でも作れる町ですので、その中で何がいかと。そしてこれから、先ほど委員長もおっしゃいましたとおりブランド化を目指して、例えば南郷地区では一部ジャガイモでメーカーとの協賛をもって生産していく部分もありますし、少なからず小牛田地域でも協力している方がいます。この間の農協さんの資料でもジャガイモ関係は増えていると。作付けが増えて今、拡大中ですよということでもありますし、ただ、こっちは大メーカーで契約栽培的なところもありますので、なかなか商品化というのは、オリジナルブランドが難しいですけども。

委員長が先ほど本当に申したとおり、これから町として、やはり美里町はこれだよというものをぜひ、私たち農家だけではなくていろんな知恵を拝借しながら、商業の方や工業者の方々のいろんなオリジナルの作り方や販売形式なり知恵を出し合いながら進めていくのに、例えば来年にこれはどうだというのではなく、時間が必要だと思うんですよ、こういう開発を目指しては。商品をどれだと選定するのも、そのとおり時間がかかりますし、その中で長い目でと言ったら変な言い方になりますけども、早々のほうはいいでしょうけども、やっぱりそれだけの時間をかけながらじっくりと美里ブランドに関しては、例えば農商工連携含めて、永遠の課題になっていくんじゃないかなと考えていますので。

	今回、私たちがどこまで提言できるかわかりませんが、少なからずとも例えば農家の方々やほかの取り巻くいろんな関係の方々に、いや、こういうことを考えているんだという問題提起を出していくというのも、これから一つではないかなと考えています。 以上です。
我妻委員長	今後の問題提起の基本的なのが出されました。 お昼近くなってきて。 ちょっと休憩します。
	休憩 11：55 再開 12：25
我妻委員長	再開します。 午前中、時間過ぎましたけど。 ＪＡとの意見交換の感想を含めて出し合っていていただきまして、今後の進め方ということになります。 生産者だけでなく、あとは我々この間、何力所か産業振興課、担当課の人にも入ってもらっているいろんな意見交換を重ねてきましたし、あとは町でやっている農商工連携の展開についての取り組み、やってきていることもありますので、それらの中間的な総括というか、どんな状況で進んでいるのかの推移を担当課から一回聞いて、担当課としての考え方も率直に意見交換する場を設定して、その後にそれを受けて我々委員会としての方向性を見出していきたいというふうに思います。 そんな方向でよろしいですか。 （「はい」の声あり） じゃ、今日はこの程度に留めまして、次回は担当課とちょっと日程調整しまして、あらためて通知したいと思います。でも、大体の枠ぐらい、どの辺がいいか。 （「今月末にするか」の声あり） 今月中のほうがいいよね。３月は議会、２日から議会が入ってしまう。担当課も議会前で忙しいかな。 （「一般質問もある」の声あり） 一般質問もあるしな。一般質問は２３日。 （「２３だね」の声あり） ２８日までしかないものね、今月ね。 じゃ、３月会議の後か。担当課の意見を聞くとなると。

	(「議会終わってからだね」)の声あり) じゃ、3月会議終了後ということで担当課の日程、まず聞いて。 3月会議終了後ですね。 (「はい」の声あり) じゃ、その辺はあと、まず日程調整は担当課と副委員長と相談しながら決めて御連絡申し上げたいと思います。 (「はい」「お願いします」の声あり) いいですね。 今日は12時30分過ぎましたが午後の部は無しにしまして、この程度に留めたいと思います。 じゃ、副委員長お願いします。
山岸副委員長	12時半まで頑張ってね、会議を延長させていただきました。 今、委員長、皆さんと協議の結果として産振ともう一回意見交換をして、その後に3月会議終了後に常任委員会を開催して今後の進め方を検討をするということで、今日のところはこれで終了させていただきます。 大変皆さん御苦労さまでした。ありがとうございました。
	閉会 12:29

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

総務、産業、建設常任委員会

委員長